

その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.137

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



たなかやすお ● '56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。「文藝」(河出書房新社)2013年冬季号から17年ぶりに小説の連載を開始。【公式ブログ】<http://www.nippon-dream.com/>



覇道の誘惑を排し、王道の気概を抱き続ける和菓子舗

今週の逸品



空也最中 10個入り1000円

保存料・添加物等は使用せぬ空也最中は常温で1週間は日持ち。なれど当日味わうに如くは無し。硬くなった最中を汁粉で愉しむ方法も菜に記載。カステラ生地で餡を挟んだ空也双紙を始め季節の生菓子も全部で22種類。とまれ本日ならぬ「今週は予約で全て売り切れました」と詫言が開店と同時に貼り出される10個入りからの空也最中は事前予約必須。猫、五代目は船の瓶詰等を「空いる」銘柄で品川エキュートで展開。

【空也】東京都中央区銀座6-7-19 ☎03-3571-3304 営業10:00~17:00(土曜~16:00) 定休日曜祭日 要予約 現金のみ 持ち帰りのみ

illustration by Hajime Anzai



人の叡知が答え、しています。

「叡知」ならぬ「縊知」側の一人として依頼を受けた僕も「ローマ教皇の容赦なき警告」と題し、当連載でも以前に触れた二八八節に及ぶ教皇フランシスコの使徒的勸告と、一八世紀の著述家政治家であったエドモンド・バークの言説を引用。「脱・市場万能主義」こそ保守の心智と寄稿しました。

而して「変える」と自体が自己目的化され、「なぜ変えるのか」や「変わったらどうなるのか」の検討は置き去り」と竹森俊平氏。「外は広く内は深い」と敗戦直後に仏教学者鈴木大拙は説くも、「今、日本に漂う空気は『外は狭く内は浅い』という偏狭な自己主張」と寺島実郎氏。実は少なからぬ論考が、偏狭なる「保守」に硬直した「革新」へと変容した現況を憂えていて、意を強くしました。

「長期的な目線で『穏やかな国・日本』を守るために」と題して巻末には、歴史修正主義なる覇道が齎す「日本の孤立化」を憂う半藤一利氏のインタビューも掲載。

海軍大臣・米内光政、軍務局長・井上成美と共に聯合艦隊司令長官・山本五十六が三国同盟締結に反対するも「三人とも異端扱いされ」、「いま、そこにある危機」のみに気を取られ、た上層部の「大國主義」が日本を奈落の底に突き落としたと語ります。僕は空也の王道の営みをふと想起しました。

配送・配達には行わず、支払は現金のみ。予約必須。銀座六丁目は並木通り沿いの、最中で夙に名高き「空也」の経営指針です。今年で創業百三十年を迎えます。

夏目漱石の「吾輩は猫である」にも登場した往時は上野の池之端に存在、戦災で焼失し移転、と店の葉は記します。屋号は空也念仏から採ったのだとも。初代は関東空也衆の一人でした。故に最中は踊り念仏の拍子を取る際に叩く瓢箪を模した楕円形です。十七坪の敷地に建つ店舗の上下

階で一日に二百四十キロ、十勝産の小豆を高純度の白さら糖で煮詰めた粒餡は翌朝、日本橋茅場町で江戸時代から暖簾を掲げ家族で営む「種萬」から届く皮の間に挟み込まれます。その数千個。

四代目の現当主は以前、述懐しています。「作り立てを毎日、売っているのが商いの喜びではないでしょうか。私どもの目の届く範囲で作っているからこそ出来るんです。需要に追われ、工場を建てて生産でもしたら、とても出来やあしません」と。

特注で僅かに表面を焦がした皮のぱりぱりとした、小豆の皮と実の絶妙な按配のざらざらとした、その舌触りは、斯くなる矜持の下に今も猶、保たれているのです。「老舗」と褒めそやされるや往々にして陥り勝ちな規模の拡大・品質の劣化とは一線を画す、詰まりは覇道の誘惑を排し、王道の気概を抱き続ける和菓子舗です。

「文藝春秋」六月号は『安倍総理の「保守」の覚悟を問う』特集を組み、日本の針路はどこに向いているのか。我等の漠たる不安に百